



KONICA MINOLTA

HONDA



Driver Stand 2りんかん



# CARDION AB GRAND PRIX CESKE REPUBLIKY

2007年 MotoGP 世界選手権シリーズ 第12戦

ブルノ(チェコ)[8月19日(日) 決勝 天気 晴れ]

#56 中野真矢 [予選11位 決勝14位 総合ランキング17位]

今回は、エンジンと車体に新しいパーツが来たので、ここから後半戦に向けて流れを変えたいと思っていた。

エンジンに関しては、すごくスムーズなキャラクターで乗りやすくなり、特にコーナーの立ち上がりでは速く走れるようになった。

しかし、車体の方はセットアップに戸惑い、タイムアップするとフロントが跳ねる症状が出てしまっていた。

決勝に向けては、少し固めのフロントタイヤを選択しその跳ねを抑えようとしたが、結局レース中盤から同じようにフロントが跳ねてしまいペースが上げられず、14位でレースを終えることになった。

明日、1日テストがあるので、そこでいい方向性を見つけたい。



ジャンルカ・モンティロン (コニカミノルタホンダチーム 監督)



マシンが更新された今回のレースでは、いつもと違う展開を期待していた。

明日のテストでは、このチャタリングの問題を完全に克服してしまいたい。

これがタイヤから来るものなのか、

セッティングによるものなのかを見定め、良い結果をもたらすことを期待している。このままでは、真矢はこれ以上プッシュできないし、この問題は今シーズンを通して変わっていない。

しかし、明日のテストでは、この新しいバイクで試してみることで大きく改善できるようやってみるつもりだ。

ニッキー・ヘイデンとダニ・ペドロサ両選手が、ファクトリーバイクで結果を残しているのは、これからのホンダのマシンにとって、とてもポジティブだ。

月曜日は直接レースポイントには関係しないが、後半戦へ向けての重要な情報を得られるはずだよ。

OfficeFourEight

© shinya56.com